

特 40

148



源氏物語講義

廿七



大段の同所、右大臣
 を討つてつりてさうり
 がほよおをささるゝ候
 となり、又三小段の條
 と處、さとの條、さへハ
 才五節より、いねぶさ
 やうかさくさえつ
 けのへ、同所より、
 心かりせよ、けれ
 才七節より、いねぶさ
 同所より、心みさ
 ぶれてさ、あり、又四
 小段の才三節より、山寺
 より、いねぶさ、光さ
 するひび、たてま
 光とつ、詞、全篇よ
 びつりての、眼目、又
 四小段の才十節、落盡
 伊落飾の條より、いね

大段の同所、右大臣
 を討つてつりてさうり
 がほよおをささるゝ候
 となり、又三小段の條
 と處、さとの條、さへハ
 才五節より、いねぶさ
 やうかさくさえつ
 けのへ、同所より、
 心かりせよ、けれ
 才七節より、いねぶさ
 同所より、心みさ
 ぶれてさ、あり、又四
 小段の才三節より、山寺
 より、いねぶさ、光さ
 するひび、たてま
 光とつ、詞、全篇よ
 びつりての、眼目、又
 四小段の才十節、落盡
 伊落飾の條より、いね

廿七号二

大段の同所、右大臣
 を討つてつりてさうり
 がほよおをささるゝ候
 となり、又三小段の條
 と處、さとの條、さへハ
 才五節より、いねぶさ
 やうかさくさえつ
 けのへ、同所より、
 心かりせよ、けれ
 才七節より、いねぶさ
 同所より、心みさ
 ぶれてさ、あり、又四
 小段の才三節より、山寺
 より、いねぶさ、光さ
 するひび、たてま
 光とつ、詞、全篇よ
 びつりての、眼目、又
 四小段の才十節、落盡
 伊落飾の條より、いね

大段の同所、右大臣
 を討つてつりてさうり
 がほよおをささるゝ候
 となり、又三小段の條
 と處、さとの條、さへハ
 才五節より、いねぶさ
 やうかさくさえつ
 けのへ、同所より、
 心かりせよ、けれ
 才七節より、いねぶさ
 同所より、心みさ
 ぶれてさ、あり、又四
 小段の才三節より、山寺
 より、いねぶさ、光さ
 するひび、たてま
 光とつ、詞、全篇よ
 びつりての、眼目、又
 四小段の才十節、落盡
 伊落飾の條より、いね

源氏物語講義

はらの

三

一ノ身七節

旅のゆきまらざりて色
涙より潤度しては息
あそびの女房障よめ
きりぬるるるるるるる
よぬれりて浮華とい
ふも同し○
くは下りの目限の近
くはあつたつたつたつた
まはるるるるるるるる
ほ身も朝夕暮れぬる
○
息ののほくもりりりり
まのいさふちりりりり
を今い治定りりりり
を喜りりりりりりりり
ゆるるるるるるるるる
のなゆりりりりりりり

ゆきまらざりて色
涙より潤度しては息
あそびの女房障よめ
きりぬるるるるるる
よぬれりて浮華とい
ふも同し○
くは下りの目限の近
くはあつたつたつたつた
まはるるるるるるるる
ほ身も朝夕暮れぬる
○
息ののほくもりりりり
まのいさふちりりりり
を今い治定りりりり
を喜りりりりりりりり
ゆるるるるるるるるる
のなゆりりりりりりり

廿七号九

いそぬ身かゝ安
○せよぬけ出ぬ
人の抜群のふんは息
あそびりりりりりりり
せき俗キウクツ之高
貴のこもいりりり

いそぬ身かゝ安
○せよぬけ出ぬ
人の抜群のふんは息
あそびりりりりりりり
せき俗キウクツ之高
貴のこもいりりり

一ノ身八節
ちやうぶぶぶぶぶぶ
送使の伊勢まを供奉
して無事ニ下向の音
を還り奏はるるるる
はらよせ桐葉隠故
坊のるるるるるるる
○かけはくもまじか
けてりりりりりりり
とあつたつたつたつた
かゝる神だはりりり
古今上天のあつたつた
とあつたつたつたつた
あ甲をばりりりりり

ちやうぶぶぶぶぶぶ
送使の伊勢まを供奉
して無事ニ下向の音
を還り奏はるるるる
はらよせ桐葉隠故
坊のるるるるるるる
○かけはくもまじか
けてりりりりりりり
とあつたつたつたつた
かゝる神だはりりり
古今上天のあつたつた
とあつたつたつたつた
あ甲をばりりりりり

